



👁️👁️ みどころ

私は、1960 年代の『ベン・ハー』(59 年)、『スパルタクス』(60 年)、『クレオパトラ』(63 年) 等の“ローマ史劇大作”が大好き！しかし、“エピック劇”は大金がかかるから、今のハリウッドでは製作は無理。そんな時代状況下、1910 年生まれの大巨匠フランシス・フォード・コッポラ監督が、構想 40 年、186 億円の私財を投入して自分の夢を実現したから、すごい！

アメリカ合衆国は現在「トランプ 2.0」の下で大混乱だが、“ニューローマ”を中心とする近未来の“アメリカ共和国”では、天才建築家カエサルが、理想都市メガロポリスの建設に邁進中だから、これまたすごい。彼が発明し、ノーベル賞を受賞した新素材メガロンとは？そして、彼が「時よ止まれ！」と唱えると、アレレ、アレレ・・・？なお、本物のシーザーは紀元前 44 年に暗殺されてしまったが、本作のカエサルの暗殺は如何に？

脚本は混乱し、映像も前時代的で成功とは言えない。そんな新聞批評を含め、評論家の評価はイマイチだが、私はこんな映画が大好き！コッポラ監督の奮闘に拍手！アメリカ共和国に生き、メガロポリス建設に邁進するカエサルに拍手！そして、「トランプ 2.0」が進行中のアメリカ合衆国の行方に注目！

———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ————

■□■ 構想 40 年！私財投入！86 歳の巨匠が夢を実現！ ■□■

フランシス・フォード・コッポラ監督といえば、すぐに『ゴッドファーザー』3 部作 (72 年～90 年) や『地獄の黙示録』(79 年) を思い出す巨匠だ。1910 年生れの黒澤明監督は 1998 年 9/6 に 88 歳で死去したが、1939 年生まれのコッポラ監督は 2001 年から本作の撮影準備を進めながらも、①同年の 9.11 世界同時多発テロのため中断、②2007 年に一度は断念を覚悟し、③新型コロナウイルスによるパンデミックを機に 2021 年に自身のワイン

事業の一部を売却し、私財 186 億円を投入して本作のプロジェクトを再始動し、④約 300 回におよぶ脚本の改訂を経て遂に本作を完成！その時 86 歳だから、すごい！

『キネマ旬報』2025 年 7 月号 (No.1965) は、「コッポラ、映画で“世界”をつくり男」(6～35 頁)を巻頭特集しており、そこには、南波克行氏(映画批評家)の「無謀と英断の紙一重—フランシス・フォード・コッポラ、その世界と人生」と題する論考があるので、これは必読！

■□■メガロポリスとは？近未来のニューローマは？■□■

40 年の構想を経てやっと完成した本作のタイトルは『メガロポリス』だが、「メガロポリス」って一体ナニ？Wikipedia によると、「メガロポリス」はギリシャ語で、「多くの大都市が深い関係を持って帯状に連なっている地域のこと。メガリージョンとも呼ばれる。」、「フランスの地理学者ジャン・ゴットマンが、政治、経済、文化の中核的機能の集積において、前述の地域がメトロポリス(大都市)以上のものであることから、メガロポリス(巨大都市)と命名した。」とのことだ。また、メガロポリスの類義語として、①メトロポリス「大都市(都市圏から大都市圏まで、一般的に用いる)」、②メガシティ「最大都市(人口の多い都市圏)」があるとのことだ。なるほど、なるほど。

さらに、Wikipedia には、世界のメガロポリスとして、①ボスウォッシュ(アメリカ合衆国)、②東名阪(日本)、③ブルーバナナ(欧州)、④珠江デルタ(中華人民共和国)を挙げている。そして上記①について、「アメリカ合衆国北東部、ニューヨークを中心にボストンからワシントン D.C.までの大西洋沿岸に広がるメガロポリス。周辺の衛星都市を含め、全長約 700km にわたる都市群が形成されている。」と解説されている。本作が描く近未来のアメリカではこのボスウォッシュのそれをはるかに上回るメガロポリスが、市の都市計画局局長を務めるカエサル・カティリナ(アダム・ドライバー)の手によって建設されようとしていたから、それに注目！

他方、私は中・高時代に観た『スパルタカス』(60 年)、『ベン・ハー』(59 年)、『クレオパトラ』(63 年)や近時の『グラディエーター』(00 年)、『グラディエーターII 英雄を呼ぶ声』(24 年)(『シネマ 57』73 頁)等の「ローマ史劇」が大好きだが、まさか 18 世紀の新大陸に新しく生まれた国「アメリカ合衆国」が、近未来では共和制ローマになっているとは！さらに、アメリカ合衆国の大都市ニューヨークが、近未来のアメリカでは、本作冒頭でみるような大都市ニューローマになっているとは！

■□■共和制ローマの統治は？その中心はニューローマ！■□■

ローマ帝国の歴史は、18 世紀のイギリスの歴史家エドワード・ギボンの『ローマ帝国衰亡史』や塩野七生が「なぜローマは普遍帝国を実現できたのか」という視点のもとで、1992 年から年に 1 冊ずつ刊行した『ローマ人の物語』等で詳しい。その統治期間はメチャ長く、統治面積もメチャ広いから、その全体像の把握は難しいが、一言でいえば、その歴史は「共和制ローマ」から「帝国制ローマ(ローマ帝国)」への移行だ。

共和制のローマは、元老院を中心として代議員制による間接民主主義だから、すごい。そんな共和制ローマから帝政ローマに移行するきっかけは、紀元前 44 年に起きたジュリアス・シーザーの暗殺事件。シーザーの暗殺後、シーザーの妻になっていたエジプトの女王クレオパトラと結んだローマの将軍アントニウスはシーザーの養子であったオクタビウスとの間で対立が生じ、「アクティウムの海戦」におけるアントニウス+エジプト連合軍の敗戦によって、オクタビウスがローマ帝国の礎を築いたが、その物語は、『クレオパトラ』（63 年）でタツプリ楽しむことができた。

共和制ローマでもローマ帝国でも、その首都はローマだが、本作冒頭に見る近未来のアメリカ共和国のメガロポリスの中心はニューローマ。これは、「現代アメリカは古代ローマと歴史的に対をなすものである」との“コッポラ説”に基づく設定だ。その当否はともかく、このような設定はメチャ面白いので、それにも注目！

■カエサルとキケロ！2 人の主人公に注目！■

そんな本作の一方の主人公は前述したカエサル・カティリナ。彼は、新素材メガロンの発明でノーベル賞を受賞した天才建築家だ。メガロポリスの建設にはこのメガロンがたっぷり使われているそうだが、それは一体どんな夢の素材なの？また、本作冒頭には、高層ビルの屋上の端に 1 人で立つカエサルの姿が登場し、そこで彼は「時よ止まれ！」と唱えながら一瞬飛び降りる態勢になるので、それに注目！

いかなる天才建築家でも、物理学的には「ニュートンの法則」から逃れることはできないはずだが、映画とは何とも便利な芸術！本作では一瞬「時が止まり」、カエサルは地上に転落することなく再び元の位置にバックすることになるので、このコッポラ監督の奇妙な演出（？）にも注目したい。カエサルが本当に「時を止める」ことができるのなら、その特技（？）を活用した（？）彼の今後の人生は如何に・・・？

本作のもう一人の主人公は、フランクリン・キケロ市長（ジャンカルロ・エスポジート）。近未来のアメリカ共和国の大都市ニューローマでは、享樂にふける富裕層と苦しい生活を強いられる貧困層との激しい格差が社会問題化していた。カエサルはすべての人間が平等で幸せに暮らせる理想社会のために、伯父の大富豪ハミルトン・クラッスス 3 世（ジョン・ヴォイト）の後ろ盾を受けながらメガロポリス開発を推進していたが、キケロ市長は、財政難という課題を現実的に解決するためカジノ建設を計画し、カエサルと正面から対立していた。しかも、元検事のキケロには、かつてカエサルを妻サニー・ホープ（ヘイリー・シムズ）殺害の容疑で告発しながらも、無罪で決着した因縁があったから、そんな 2 人は宿命のライバルだ。

■カティリナの陰謀とは？本作の着想はその大事件から！■

あなたは「カティリナの陰謀」を知っている？私は、映画『スパルタカス』（60 年）を観て『スパルタカスの反乱』（前 73 年）をはじめて知ったが、寡聞にして「カティリナの陰謀」は全く知らなかった。そんな「カティリナの陰謀」について、パンフレットは次の

とおり解説している。すなわち、

カティリナの陰謀

ルキウス・セルギウス・カティリナ（紀元前108年-紀元前62年）は共和制ローマ後期の貴族、軍人である。領事を目指したが、政敵マルクス・トゥッリウス・キケロ（紀元前106年-紀元前43年）に敗れた。キケロは著名な作家、詩人、弁護士、政治家であり、ローマで最も偉大な演説家の一人と見なされている。執政官だったキケロが元老院議会でカティリナのクーデター計画に対する弾劾演説を行ったことで有名である。カティリナは、貧乏人から裕福な者まで、自分も含めて借金をなくす運動を展開し、多くの人々の支持を得た。

なるほど、なるほど。

私は「カティリナの陰謀」は知らなかったが、シーザーとほぼ同世代で共和制ローマ時代を生きた政治家・弁護士・文筆家・哲学者であるマルクス・トゥッリウス・キケロの名前はよく知っていた。それはキケロの弁論術として有名なものをいろいろなところで聞きかじっていたためだが、Wikipediaによると、キケロは「シーザーを暗殺したブルータスなどと会談していた」とか、「シーザーの後継者に座ろうとするアントニウスに対抗するため、当時平民だったオクタ비아ヌスを政界に召喚し、彼の人気を後ろ盾に『フィリッピカ』と題する数次にわたる“アントニウス弾劾演説”を行った」と解説されていたのでビックリ！さらに、BC63年に執政官に就任したキケロは、カティリナの陰謀事件について「カティリナの弾劾演説」を行っていたことにもビックリ！

もっとも、コッポラ監督はキケロについてのそんな歴史的な事実を完全に無視し、本作ではコッポラ独自の「キケロ市長像」を創作しているので、それに注目！したがって、本作では大阪で1836年（天保7年）に発生した「大塩平八郎の乱」によく似た（？）「カティリナの陰謀」のストーリーは全く登場しないので、あまりその“史実”にとらわれないように。

■□■カエサルをめぐる2人の女性に注目！■□■

「英雄色を好む」のは当然。『クレオパトラ』ではレックス・ハリソン演じるシーザーがエリザベス・テイラー演じる絶世の美女クレオパトラの「色仕掛け」にハマったのか、それとも、シーザーがうまくクレオパトラと弟との対立を煽って、エジプトをローマの味方につけようとしたのか、についての微妙な演出が面白かった。

それと同じように（？）、古代ローマではなく、近未来のアメリカ共和国のメガロポリス建設に邁進するカエサルには、テレビ番組の司会を務める野心的な金融ジャーナリストのワオ・プラチナム（オーブリー・プラザ）という恋人がいた。そんな2人の中に突然割り込んできたのが、何とキケロの娘ジュリア（ナタリー・エマニュエル）だから、ビックリ！

本作の導入部では、ニューローマの運営とメガロポリス建設を巡ってトコトン対立するカエサルとキケロ市長の姿が描かれる。そんな中、父に対する侮辱に憤ったジュリアが、

いたずらで手紙を送ったことをきっかけに、カエサルと面会。対話を通じてメガロポリス開発に対するカエサルの思いに共感したジュリアは、父との仲を取り持とうとカエサルの下で働き始めたばかりか、急速に 2 人が意気投合し、ある意味で同志関係に、ある意味で恋人関係になっていくので、それに注目！

男の世界では「英雄並び立たず」が常識。それはカエサルとキケロ市長の対立を見てもよくわかるが、女の世界では、カエサルの恋人は並び立つことができるの？

■□■ワオの結婚の狙いは？クラッスス家の動向は？■□■

ニューヨークの暗黒街を牛耳るドン・コルレオーネを主人公にした『ゴッドファーザー』(72 年)は大ヒットし、コッポラ監督の代表作になった。『ゴッドファーザーPARTⅡ』(74 年)も『ゴッドファーザーPARTⅢ』(90 年)も大ヒットしたが、その「パートⅠ」の導入部は凄惨な殺し合いの世界とは裏腹に、コルレオーネの屋敷で盛大に催された孫娘コニーの結婚式だった。そこでは新郎新婦はもちろん、コルレオーネ・ファミリーは全員、平和で幸せに満ち溢れていたが、その実は・・・？

本作はカエサルによる冒頭の「時よ止まれ！」のシークエンスが印象的だが、圧倒的な迫力と共にストーリーに大きな転換を見せるのは、カエサルの恋人ワオが、カエサルの伯父でカエサルの後ろ盾になっていた大富豪ハミルトン・クラッスス 3 世と挙げる結婚式からだ。あれほどべったりだったカエサルとの恋仲を捨てて、ワオがクラッスス 3 世との結婚に踏み切ったのは、一体なぜ？それはあなた自身の目でしっかり確認してもらいたいのが、巨大なコロッセオに市民を集めて開かれた結婚式のパーティーの席で突如、カエサルと未成年の人気歌手、ウェスタ・スウィートウォーター（グレース・ヴァンダーウォール）の性的スキャンダル動画が流出したから、さあ大変！それによってカエサルは逮捕されたが、これはクラッスス 3 世の孫クローディオ・プルケル（シャイア・ラブーフ）が、一族の後継者としての自分の立場を脅かすカエサルを敵視し、罠に陥れるために用意したフェイク動画だったからビックリ！クローディオがそんな行動に出たのはクラッスス家における自分の地位を守るためだが、カエサルの恋人だったワオもそれに協力したの？その実態はともかく、それによってカエサルは逮捕されてしまったから、カエサルはこれにてアウト！？いやいや、今やカエサルの恋人かつ同志になっているジュリアとカエサルの愛の力は？そしてジュリアとカエサルの反撃は？

■□■カエサルの暗殺事件が勃発！クラッスス家の承継は？■□■

シーザーの暗殺は BC44 年。これは「シーザーが死んだ」の語呂合わせで丸暗記させられたが、中国での始皇帝の誕生は BC221 年だ。中国史が大好きだった私は、ローマ帝国の激動の物語と始皇帝の激動の物語を連動させながら、さまざまな歴史ドラマを覚えたから、私の頭の中にはさまざまな歴史上の物語が関連しながら入っている。

しかして、本作では、近未来のアメリカ共和国のニューローマにおいて、カエサルの暗殺事件が勃発するので、それに注目！『ゴッドファーザー』3 部作では次々と印象的な暗

殺シーンが登場したため、多くの人がそれを覚えているはずだ。とりわけ、コロレオーネの敵を暗殺してイタリアに逃げ、イタリアで幸せな結婚式を挙げた三男のマイケル（アル・パチーノ）の新妻の暗殺シーン（車の爆発シーン）は印象的だった。それをはじめとして、『ゴッドファーザー』における暗殺事件はことごとく成功（既遂）していたが、さて本作は？カエサルがそのまま死んでしまえば、カエサルの子供を身ごもっている妻のジュリアは父なし子を生まなければならないことになるが、さて・・・？

他方、婚前契約によって自分にクラススス一族の銀行を相続する権利がないことを知ったワオは、クロードディオと結託し、クラススス家の乗っ取りを企んだが、その首尾は・・・？

■□■メガロポリスの成否は？アメリカ合衆国の行方は？■□■

世界は今、石油と貴重鉱物・レア金属の争奪戦に明け暮れているが、本作でカエサルが発明しノーベル賞を受賞したという新素材“メガロン”とは一体どんなもの？それは、メガロポリス建設にどのような役に立つの？本作ではそれがはっきりしないのが少し不満だが、カエサルがありったけの力を注ぎ込んだメガロポリスの建設は如何に？

コッポラ監督は、「かつてローマで起きたことが、今、米国で起きているのか。それが個人的に関心があるので、米国の現状を理解したくて本作を撮った」と語っている。しかし、それが成功しているかどうかの判断は難しい。私はこんな映画が大好きだが、新聞紙評では「脚本は混乱し、映像も前時代的で成功作とは言えない。」等の芳しくない評価が多い。たしかに私の目から見ても、本作のハチャメチャぶり（？）が目立つから、コッポラ監督が投入した 186 億円の私財の回収には大きな不安がある。しかし、それでもコッポラ監督は今や 87 歳。金を持ってお墓に入るわけではないのだから、好きな映画を好きなように撮ることで余生を過ごせばいいのでは？

本作は完成までに 40 年も要したが、私は結果として「トランプ 2.0」が始まり、アメリカ合衆国が一時的にせよ、“トランプ王国（帝国）”になろうとしている 2025 年 6 月の時点で公開されたのは実にタイムリーで大成功だと考えている。就任後「24 時間で解決してみせる」と豪語したロシア VS ウクライナ戦争の和平交渉が一向に進まない中、2025 年 6 月に突如発生したイスラエルとイラン間の「12 日戦争」でうまく立ち回った（？）トランプ大統領は誇らしげだが、彼の王国（帝国）は長くは続かないはずだ。

しかし、近未来の“アメリカ共和国”にカエサルが建設しようとしたメガロポリスは長く人々の幸せと繁栄に寄与することに・・・？あなた自身が本作をしっかり鑑賞した上で、そうなるのどうかを含めて、アメリカ合衆国の行方に注目！

2025（令和 7）年 7 月 2 日記